

4-6月期業績は順調な進捗 中長期戦略の実行力にも注目

(作成者：奥村義弘)

○株式市場の大幅調整は投資の好機

7月に入り、想定外に混迷したギリシャ支援問題や大幅下落した中国株の影響で揺さぶられた日本株市場だが、落ち着きを取り戻しつつある。7月中旬より3月本決算会社の4-6月期決算の発表が本格化する。個別材料に注目する投資家は増え、反発の動きが期待できよう。

○景況感は低下も方向性は悪くない

7月9日に発表されたIMFの世界経済見通しでは、15年の成長率予想が3.3%と4月調査比0.2ポイント下方修正された。これは北米の経済活動が、天候要因、港湾ストライキの影響で停滞したこと、ブラジルなどの新興国の成長が一次産品の下落で減速したためである。中国については構造変革に取り組んでおり、調整に時間を要しそうだ。一方、欧州、日本は金融緩和が効果を上げつつある。米国は順調な雇用の回復、堅調な消費動向から金融の正常化に向けて歩み出している。先行きの米利上げ影響は緩和マネーの行方次第で、新興国の新たなリスクともなりうるため注意を要する。反面、金融機関には新たなビジネスチャンスを与えるものとなろう。また、一次産品の調整が続いていることは、米国エネルギー産業の不安定要素となるが、エネルギーを消費する先進国や中国の製造業にプラス要素となることも指摘しておきたい。全体感は、金融緩和が効果を上げつつあり、日本、欧州など先進国は安定的な成長を示しつつある。

○日本経済も7-9月期は調整局面へ

ただし、消費税の引き上げの悪影響を、賃上げ、訪日外国人客増などによりカバーしてきた日本経済も、足元はスマホなどハイテク景気に沸いた電子部品への需要が端境期に入っている。自動車も国内販売の不振や、減速感の強いアジア市場の動きなどから、生産は調整気味である。下期は自動車では新型車投入でモメンタム好転が予想される。電子部品では、車載用や情報通信向けニーズが拡大しており、これまでの調整局面と比べると、底は浅そうだ。景気ウォッチャー調査で見る景況感の低下は、企業が値上げに転じたことが影響している。「脱デフレ」に向けて前向きの動きともみることができる。関係冷却が続いていた対中対韓関係も雪解けのムードが生じてきており、円安継続の流れからも、訪日外国人客拡大の流れは続きそうだ。目先の中国株調整を近視眼的にとらえることは過剰反応と言えよう。

○企業決算にはポジティブな動きが目立とう

3月本決算会社の4-6月期決算の発表予定日を見ると、発表社数からは7月31日と8月7日に山

場を迎える。6月のアナリスト予想も概ね良好なモメンタムを示した。なかでもポジティブであったセクターには、機械、建設、不動産、銀行、その他金融などがあげられる。製造業では上方修正が目立った設備投資の動きに注目したい。成長戦略にも絡む「バイオ」「FA・ロボット」「車載関連」には豊富な材料がありそうだ。内需では「訪日外国人」「新幹線」「IT需要」「金融」をキーワードとして注目したい。この6月、7月の予想EPSは、高値圏横ばいの動きであったが、期初は保守的な会社計画が目立ったこと、前提より円安が進行、コスト面では原油安も続いており、順調な進捗を示す企業は多いと考える。豊富なキャッシュフローを活かした中長期的視点から戦略投資の実行状況にも注目したい。

◇IMFの世界経済見通し(2015年7月調査)

(単位:%)

	2013	2014	経済成長率		2015年4月調査比	
			2015予	2016予	2015予	2016予
世界	3.4	3.4	3.3	3.8	▲ 0.2	0.0
先進国・地域	1.4	1.8	2.1	2.4	▲ 0.3	0.0
米国	2.2	2.4	2.5	3.0	▲ 0.6	▲ 0.1
ユーロ圏	▲ 0.4	0.8	1.5	1.7	0.0	0.1
ドイツ	0.2	1.6	1.6	1.7	0.0	0.0
イタリア	▲ 1.7	▲ 0.4	0.7	1.2	0.2	0.1
スペイン	▲ 1.2	1.4	3.1	2.5	0.6	0.5
英国	1.7	2.9	2.4	2.2	▲ 0.3	▲ 0.1
日本	1.6	▲ 0.1	0.8	1.2	▲ 0.2	0.0
その他	2.2	2.8	2.7	3.1	▲ 0.1	0.0
新興市場及び途上国・地域	5.0	4.6	4.2	4.7	▲ 0.1	0.0
欧州新興国・途上国	2.9	2.8	2.9	2.9	0.0	▲ 0.3
ロシア	1.3	0.6	▲ 3.4	0.2	0.4	1.3
徐くロシア(CIS)	4.2	1.9	0.7	3.3	0.3	0.1
アジア途上国・新興市場国	7.0	6.8	6.6	6.4	0.0	0.0
中国	7.7	7.4	6.8	6.3	0.0	0.0
インド	6.9	7.3	7.5	7.5	0.0	0.0
ASEAN-5	5.1	4.6	4.7	5.1	▲ 0.5	▲ 0.2
中東・北アフリカ等	2.4	2.7	2.6	3.8	▲ 0.3	0.0
ブラジル	2.7	0.1	▲ 1.5	0.7	▲ 0.5	▲ 0.3

(出所)IMF「2015年7月世界経済改訂見通し」



(注) 予想EPSは日経平均株価÷日経平均単純平均PER(予想)で算出、直近値7月10日
(出所)CAM作成



(注) コンセンサスDIはアナリストが予想連結純利益を3カ月前地点に比べて3%以上上方修正した銘柄を「強気」と定義、下方修正した銘柄を「弱気」と定義。「強気」銘柄が全体に占める比率から、「弱気」銘柄の比率を差し引いて算出
(出所) Quick Astra Manager より CAM作成

[重要開示事項]

- 本資料は、ちばぎんアセットマネジメント株式会社(以下「CAM」)調査部が投資判断の参考となるよう情報提供のみを目的として作成したもので、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本資料はCAMが信頼できると考える情報源から得た上記日時現在の各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性についてCAMが保証するものではありません。
- 加えて、本資料に記載されたCAMの意見ならびに予測は、予告なしに変更することがあります。
- 投資に関する決定は、お客様ご自身の判断でお願いいたします。